



# 西念寺だより 文月号

令和1年7月1日

〒610-0331 京田辺市田辺北里29番地

TEL 0774-62-1027 0774-63-2912



## 今年もお盆が近づいて参りました

薄月夜 花くちなしの 匂いけり

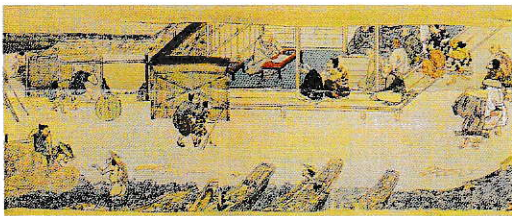
正岡子規

雨雲が多く月も薄れてしまう夜に、花の姿ではなく匂いに季節を感じたとは、何とも情感溢れる一句です。

今年例年になく梅雨入りが遅れ、今頃になって毎日のように雨が降り続けていますが、壇信徒の皆様方にはいかがお過ごしでしょうか。平素は何かと御協力賜り誠にありがとうございます。

さて、梅雨とは春から夏に移行する過程で、雨が多く日照が少なくなる季節現象ですが、お釈迦さまの在世の頃より、雨季には仏道修行者たちは一カ所に集まって集団生活をしていました。これを「安居（あんど）」と言いますが、草木が芽吹き、虫たちが盛んに動き出すこの時季に無用な殺生をしないようにする慣習です。この「安居」を通じて修行僧は自身の罪深さ、どんなに殺生しまいと努めても、自らの命を繋ぐためには殺生せずには生きてはいけないといった罪業感を自覚し深めるためのものです。

以前、ペンシルベニア州立大学の研究で、魚にも鳥類や哺乳類と同様に痛みや苦しみを感知する能力が備わっていることが証明されました。しかもその能力は、ヒトの新生児以上のものであるという結果でした。こうした現代科学の知見は、「魚は人間ではないのだから、人間のように慈しんだところで意味がない」といった考え方を一蹴します。私の父はもともと愛知県出身で、自分は今でもよく寺津港の近くにある法照寺に行っていますが、地元の漁師さん達は「アイツらな、絶対痛がつとるで」と、釣り上げた魚たちの甲板での様子をしみじみと話されるのを聞いたことがあります。そこには、前述のような学問的成果を待たずとも、魚が痛みを感じていることを漁師さん達は肌でよく感じておられるのです。

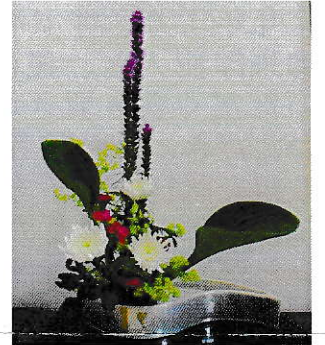


昔、播磨国（現在の兵庫県南西部）に漁師を生業とする老夫婦がいました。二人は魚の命を奪い続けてきた報いにより、死後は地獄に落ちるのを免れないと怯えていたのですが、この地に法然上人が赴かれた際に、上人に胸の内を明かし教えを乞いました。

法然上人は、「あなたたちも極楽浄土に生まれたいと心から願って南無阿弥陀佛と称えるならば、お念佛を称える者を一人たりとも漏らさず救い取ると約束された阿弥陀さまのお誓いのままに、臨終の夕べには阿弥陀さまのお迎えを頂戴して必ず極楽へ行き生まれるのですよ」と懇ろに説かれたところ、二人とも喜びの涙を流したと言われています。二人は以降、昼はお念佛を称えながら魚を獲り、夜は家に帰ってお念佛に励み、終には安らかな臨終を迎えたと『法然上人行状絵図』（第三十四巻第四段）に伝えられています。老夫婦の深い罪の意識は、言うまでもなく二人の優しさや誠実さの裏返しに他ならず、ここに人間としての最も清らかな心の輝きと、この上ない安らぎを感じます。

今年もお盆が近づいて参りました。日々大禍無く、無事に過ごさせていただいている事に感謝し、改めて御先祖や父母をはじめ、多くの命の繋がりの中で生かされている自分に気付くと共に、自他ともに救われる功德を積む、お盆をそのような気持ちでお迎えしたいと思えます。

**裏面に続く**



## 【精霊迎え(十日盆)についてのお知らせ】

今年も十日盆は、本堂内で回向受付と卒塔婆書きを行い、回向は観音堂で厳修させていただきます。高野槇のお渡しは誠心堂様の特設テントで行う予定です。

なお、例年の朗寿会様主催による朝顔展の他、朗寿会員様によるかき氷、お茶の玉宗園様の御協力で冷茶の接待も予定しております。天候や諸般の事情により急な変更もあるかと思いますが、何卒御容赦の程お願い申し上げます。

今年より、十日盆限定で御朱印帳への御朱印記入と、後ほど御朱印帳にお張りいただく書き置きの御朱印を用意させていただきます、御希望者に授与させていただき、御希望者は、お参りの際に御朱印帳を御持参いただくか、書き置きの御朱印をお渡しいたします。

御志納金は500円をお願いします。観音堂改修第2期工事の資金に組み入れさせていただきます予定です。



今年予定しています御朱印の例です

## 【十日盆施餓鬼卒塔婆の事前申し込みについて】

例年十日盆には多数の方にお参りいただき、御先祖様の塔婆回向を頂きまして誠に有り難うございます。また、経木塔婆を書かせていただく間お待ちいただいたり、当日お参りいただけない方のために事前にお申し込みいただき、当日お参りいただいた時にすぐにお渡しできるようにしています。

別紙申し込み用紙に必要事項を御記入の上、お寺または担当の評議員様にお届けいただくか、FAX(0774-62-1027)、若しくはE-mail(m.kitagawa@maia.eonet.ne.jp)で送信いただければ事前に準備いたします。

なお、卒塔婆準備の都合上、申し込み〆切を7月25日迄とさせていただきます。

## 【本年度棚経について】

極楽浄土に往生された御霊が、御家族のおられる皆様の御家庭のお仏壇に設けられる精霊棚に里帰りされている時、各家の精霊棚に御供養にあがり読経することを棚経といい、古くからのお盆の特色でもあります。

別紙のとおり、今年も8月11日から15日にかけてお参りさせていただきます。

今年、住職、副住職の他、これまでからお世話になってます知恩院の小笠原上人の他、知恩院式衆の大田信弘上人にもお世話になることになりました。また家内の由利子が清浄華院での修行と総本山知恩院での別開五重を満行し、資格を拝命しておりますので一部の檀信徒様のお宅にお伺いさせていただき予定です。

なお、別紙にて各檀信徒様宅を訪問させていただき日時と訪問者を印刷したプリントを同封させていただいております。ただ、近年は交通事情の悪化に加え、天候の変化等により予定時刻に遅れてしまうことが多くなっています。

誠に御迷惑とは存じますが、何分限られたお盆の期間内に檀信徒様宅を訪問させていただきことから、御理解と御協力の程お願い申し上げます。

## 【永代祠堂料御寄進のお知らせ】

今回は七間清和様より、故 七間ユキ様の五十回忌年忌法要に際し、永代祠堂の御寄進をいただきました。誠にありがとうございました。

・永代祠堂料 金20万円 為 清誉明光照信禅定尼(故 七間ユキ様)  
施主 七間清和様

